

主論文の要旨

Risk factors of postoperative early surgical complications after loop ileostomy closure.

(回腸双孔式人工肛門閉鎖術後の外科的短期合併症のリスク因子に関する検討)

東京女子医科大学第二外科学教室

(主任：亀岡信悟教授)

井原 健

東京女子医大会雑誌 第 84 巻 臨時増刊号 3 94～104 頁

(平成 26 年 11 月 30 日発行)に掲載

【要 旨】近年、低位直腸癌であっても肛門温存手術が行われることが多くなった。そのため、閉鎖時の手技的容易性を背景として covering loop ileostomy (=LI) が造設される頻度が増加している。それゆえ LI closure は増加しているが、術後合併症の発生率が高いとされ、そのリスク因子を把握して合併症を低減させることが必要とされている。そのため当科で過去 10 年間に経験した LI closure 147 例を対象として検討を行った。合併症は術後入院期間中に発生した術後早期の外科的合併症に限定し、患者因子・手術因子の全 36 項目の AIC (Akaike Information Criterion) を計算し客観的にリスク因子を選択し解析を行った。術後早期の外科的合併症は 27% に生じ、死亡例はなかった。合併症の内訳は腸閉塞 15%、創感染 10.9%、術後出血 2%、その他 0.7% であり、これまでの報告と同様に発生率は高かった。術後早期の外科的合併症のリスク因子の検討では術中出血量 50ml 以上 ($p=0.0219$) が抽出された。合併症ごとに検討すると、腸閉塞は術中出血量 50ml 以上 ($p=0.0080$) が、創感染は糖尿病 ($p=0.0253$)、腎障害 ($p=0.0352$) がリスク因子であった。これらの結果は人工肛門閉鎖術のリスク因子の検討ではこれまでに報告がない。LI closure の術後合併症は腸閉塞と創感染の発生率が高く、各々のリスク因子を考慮して手術合併症の低減に努めるべきである。